



22世紀の 庄原の森林づくりプラン



令和3年3月
庄原市



目次

< 本編 >

策定の趣旨	01
プランの内容	03
I 目指す姿	03
II 課題と方向性	06
1 転換期にある庄原市の森林・林業	06
(1) 背景	06
(2) 今、起きている問題	13
(3) 進むべきシナリオ	17
2 庄原市の人工林の課題	22
(1) 庄原市の人工林（スギ・ヒノキ41千ha）の所有形態別の課題	22
(2) とりまとめ	29
III プラン(政策立案)の考え方	30
1 ビジョンにおける政策立案の考え方	30
2 ビジョンにおける理念の実現に向けての政策（戦略）	31
IV 対策	32
1 環境に貢献する持続可能な林業の実現	32
(1) 目指す姿	32
(2) 戦略と取組内容	33
2 経営が成り立つ自立した林業の実現	46
(1) 目指す姿	46
(2) 戦略と取組内容	47
3 みらいを担う人を育む林業の実現	60
(1) 目指す姿	60
(2) 戦略と取組内容	61
プランの進行管理	69

< 附属資料編 >

1 伐採届出制度を活用した再造林推進の仕組み（事務手続き）について	1
2 用語集	3
3 森林・林業関係者からの聞き取り調査	5
4 庄原市で植林されている主な針葉樹	9

策定の趣旨

本市の森林・林業・木材産業では、令和元年度に2つの大きな動きがありました。

1つ目は、森林経営管理法の施行と国からの森林環境譲与税の自治体への交付開始、

2つ目は、大手建材メーカーとの庄原材活用のための連携協定締結です。

本市は、これらの動きを大きなチャンスにとらえ、先人が築いてきた豊富な森林資源を有効活用しながら次世代へしっかりと引き継いでいくために、令和2年3月、「22世紀の庄原の森林ビジョン」(以下「ビジョン」という。)を策定しました。

ビジョンでは、「儲かる循環型林業」の実現を「22世紀の庄原の森林の到達点」とし、「環境」、「経済」、「人」の3つの分野それぞれの目指す姿を明らかにしました。

本プランには、ビジョンに定めた目指す姿を実現するために、バックカスティング*の視点から検討した「今、取り組むべき課題」とともに、課題解決のための「戦略」及び令和3年度から令和7年度までの「5年間の取組内容」を記述することとし、プランの内容を次の4章で構成しています。

章	内 容
I 目指す姿 <small>(22世紀の庄原の森林の到達点)</small>	ビジョンに定めた目指す姿
II 課題と方向性	ビジョンで示した「森林・林業・木材産業をとりまく現状と課題」をもとに、本市の現状をさらに深掘りし、今、取り組むべき課題と方向性を整理
III プラン(政策立案)の考え方	ビジョンに示した考え方
IV 対策	「環境」、「経済」、「人」の3つの分野それぞれについて、令和3年度から令和7年度までの5年間の戦略と取組内容を整理

*バックカスティング:将来の「あるべき姿」を見据えて、今行うべき取組を考える思考法。

また、近年、地球環境や社会・経済の持続性への危機意識を背景として、持続可能な開発目標 (SDGs) ※ に基づく取組が世界的に加速しており、本プランもSDGsに示された17の目標と本プランにおける各政策との関係性を、国(林野庁)が示した考え方に基づき、次に示すアイコンで表示しました。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



さらに、本プランの取組結果については、ビジョンに基づいて、令和7年度に検証することとしており、PDCAサイクルを機能させながら次期プランに反映させることで、22世紀にふさわしい庄原の森林を着実に実現していきます。

※持続可能な開発目標 (SDGs) : Sustainable Development Goals
 国連の持続可能な開発のための国際目標。17のグローバル目標と169のターゲット(達成基準)からなる。

プランの内容

I 目指す姿（22世紀の庄原の森林の到達点）

ビジョンでは、22世紀の庄原の森林の理想像を図2(4ページ)のとおり思い描いた上で、そのイメージを図3(5ページ)のとおり描きました。

次に、理想像を実現するための方向性(理念)を、「22世紀の庄原の森林の理想像」からの振り返りと、現状と課題を踏まえ、

- ① 環境に貢献する持続可能な林業
- ② 経営が成り立つ自立した林業
- ③ 未来を担う人を育む林業

という3つの動輪が同時に回転したときに生まれる「儲かる循環型林業」として、その関係性を図1のとおり整理しました。

図1 | 22世紀の庄原の森林の到達点



1 循環する林業(植える→育てる→伐る→植える)が営まれています

- 山では、オペレーターがハイテク林業機械に乗り、注文に応じたサイズの丸太を次々と切り出しています。
- 伐採された現場は、すぐに若者が軽量の植穴掘機を携え、軽やかに苗木を植林していきます。
- 別の山では、造林作業班がロボットを巧みに操作して枝打ちし、ベテランプランナーがドローンを使って収穫調査を実施しています。
- 山裾には、自動灌水施設を備えた大規模なハウスが整備され、近くのお年寄りが集まって、優良なスギ、ヒノキ、カラマツ、コウヨウザンのコンテナ苗を丹精込めて育てています。

2 庄原木の付加価値が向上し、さまざまな用途に活用されています

- 山の麓では、丸太を搭載したトラックが林業専用道を自動走行で下ってきて、大型トレーラーに手際よく積み替えられています。
- 製材工場では、到着した大型トレーラーから一斉に丸太が投入され、工員がディスプレイに表示される伝票をクリックすると、次々と複数のラインに丸太が仕分けられ、製材品がハイスピードで完成していきます。
- 丸太の樹皮や製材端材は、製材工場に併設されたバイオマス発電ボイラーに投入されます。
- 完成した製材品は、高速道路網を通じて、次々と市内外へ供給されていきます。
- 商社、建材会社などの営業マンが全国から庄原を訪れ、手入れされた山林の現地や製材品の出来ばえを確認し、製材工場に隣接したオフィスでは、切れ目なく商談が行われています。

3 里山がしっかりと管理され、市民の豊かな暮らしが守られています

- 手入れされたスギやヒノキなどの人工林と、適度に伐採更新されている天然林により、里山風景が形成されています。
- 里山に生育する木々はしっかりと根を張り、土砂の流亡を適度に防止し、下流の人々の暮らしの安全に寄与しています。
- きれいでおいしい水が谷川に流れ、下流の農地に良質な水を供給しています。
- 里山では、カエルやカブトムシなど里山特有の多様な生き物が共存しています。
- 近くの里山では、子どもたちが虫取りや栗拾いなどの遊びを通じて、山の恵みを感じています。

4 林業の担い手が次々と育っています

- 地元や近隣の小中学生が林業体験に訪れ、子どもたちの林業への関心が高まっています。
- 市内外から林業を志す若者が、市内の高校等に設置された森林・林業教育コースに集まってきます。

図3 | 22世紀の庄原の森林のイメージ図

